

## 防災訓練の結果の概要（要素訓練）

### 1. 訓練の目的

本訓練は、「東通原子力発電所 原子力事業者防災業務計画 第2章 第8節」に基づき実施したものである。

あらかじめ定められた原子力災害時における応急対策または復旧対策等に関する手順を検証し、習熟を図るとともに、体制、資機材の取扱いに係る実効性について検証し、改善を図ることを目的とした。

### 2. 実施日および対象施設

#### (1) 実施年月日

2024年12月1日～2026年2月28日

(各訓練の実施日は、添付資料のとおり)

【発電所】原子力災害医療訓練、モニタリング訓練、避難誘導訓練、その他必要と認められる訓練

【本店】現在のプラント状態での訓練（未適合炉）、災害対策支援拠点对応訓練

#### (2) 対象施設

東通原子力発電所 1号機

### 3. 実施体制および参加人数

#### (1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者および評価者を設け、実施担当者が訓練を行う。

詳細は、添付資料のとおり。

#### (2) 参加人数

添付資料のとおり。

### 4. 防災訓練の内容および防災訓練のために想定した原子力災害の概要

#### 【発電所】

#### (1) 原子力災害医療訓練

発電所管理区域内において放射性物質による汚染を伴う傷病者が発生した想定のもと、汚染測定、除染および応急処置を実施する。

#### (2) モニタリング訓練

炉心損傷発生の可能性や構内モニタリングポストの機能喪失（測定データ伝送異常含む）を想定し、可搬型モニタリングポストを設置して空気吸収線量率の測定を実施する。

(3) 避難誘導訓練

自然現象起因による原子力災害への事象進展を想定し、緊急体制発令に伴い、事務所事務本館ならびに協力業者ヤードからの原子力災害に従事しない人員等の避難および避難誘導を実施する。

(4) その他必要と認められる訓練

a. 電源機能等喪失時対応訓練

全交流電源喪失、原子炉除熱機能喪失等を想定し、個別の緊急時対応を実施する。

b. 現在のプラント状態での訓練（未適合炉）

現在のプラント状態において、自然災害（地震）を起因とした使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失により、原災法第10条事象に至る原子力災害を想定し、プラント状況把握、発電所と本店間での情報連携等の事故収束に向けた対応を実施する。

c. 緊急事態支援組織対応訓練

高放射線量下において、現場偵察ロボットによる現場調査を想定し、現場偵察ロボットの障害物回避操作、掴み取り操作等を実施する。

**【本店】**

(1) 現在のプラント状態での訓練（未適合炉）

現在のプラント状態において、自然災害（地震）を起因とした使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失により、原災法第10条事象に至る原子力災害を想定し、発電所と本店間で情報連携を実施する。

(2) 災害対策支援拠点对応訓練

原子力災害が発生し、電源や注水等の各種設備は復旧したが、除熱機能が復旧できず、ベントを実施。周辺地域に放射性物質が放出され、放射性プルーム通過後の状況を想定し、災害対策支援拠点においてスクリーニング、除染活動を実施する。

事業者間協力協定に基づく情報連携において、Team s および衛星電話による情報連携を実施する。

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 防災訓練の結果の概要（添付資料参照）

**【発電所】**

(1) 原子力災害医療訓練

発電所管理区域内において放射性物質による汚染を伴う傷病者が発生した想定のもと、汚染測定、除染および応急処置が実施できることを確認した。

(2) モニタリング訓練

可搬型モニタリングポストを設置し、空気吸収線量率の測定を定められた手順に従い、実施できることを確認した。

### (3) 避難誘導訓練

緊急体制発令時に発電所避難者の避難誘導等が実施できることを確認した。

### (4) その他必要と認められる訓練

#### a. 電源機能等喪失時対応訓練

(a) 全交流電源喪失、原子炉除熱機能喪失等を想定した個別の緊急時対応について、定められた手順に従い、実施できることを確認した。

(b) 訓練により発電所の機器へ直接影響が生じるものは模擬とし、現場での動作確認が実施できることを確認した。

#### b. 現在のプラント状態での訓練（未適合炉）

使用済燃料プールの冷却機能喪失に対して、プラント状況把握、発電所と本店間での情報連携等を行い、事故収束に向けた対応が滞りなく実施できることを確認した。

#### c. 緊急事態支援組織対応訓練

現場偵察ロボットの障害物回避操作、掴み取り操作等が確実に実施できる習熟度であることを確認した。

## 【本店】

### (1) 現在のプラント状態での訓練（未適合炉）

使用済燃料プールの冷却機能喪失に対する発電所情報（現況）や事象の進展予測、事故収束対応について、発電所と本店間で情報連携ができることを確認した。

また、原子力規制庁緊急時対応センタープラント班（模擬）に対して、発電所情報（現況）や事象の進展予測、事故対応戦略、緊急時活動レベル（EAL）に係る情報等の情報提供ができることを確認した。

### (2) 災害対策支援拠点对応訓練

災害対策支援拠点でのスクリーニングエリアの設定および防護服を着用した状態でスクリーニング、除染活動が実施できることを確認した。

また、原子力事業者間協力協定に基づき、他事業者からの要員派遣を受け、スクリーニング活動が実施できることを確認した。

## 7. 訓練の評価

各要素訓練について、定められた手順に従い実施し、手順の有効性と対応要員の習熟を確認したこと、体制の実効性を確認したこと、資機材の取扱いについて改善を図るとともに、その実効性を確認したことから、訓練目標を達成したものと評価した。

## 8. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

当該期間中の各要素訓練における良好事例、改善点および今後に向けた改善点は、添付資料のとおり。

以上

〈添付資料〉要素訓練の概要

要素訓練の概要

【発電所】

1. 原子力災害医療訓練（訓練実施日：2025年10月15日、2026年1月22日、参加人数：延べ16名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
汚染傷病者に対する初期対応訓練を実施	① 総務課長 ② 総務課員、放射線管理課員、および構内協力企業社員	良	【良好事例】 発電所対策本部と連携した訓練により、災害発生時の情報伝達、連携体制の実効性向上を図ることができた。 【改善点】 患者搬送車やストレッチャーの取扱いについては、更なる習熟が必要である。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

2. モニタリング訓練（訓練実施日：2025年3月18日、2025年9月24日、参加人数：延べ8名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
可搬型モニタリングポストを用いた空気吸収線量率の測定訓練を実施	① 放射線管理課長 ② 放射線管理課員	良	【改善点】 資機材の電源の状態確認について、より適切な確認方法で実施する必要がある。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

3. 避難誘導訓練（訓練実施日：2024年12月18日、2026年2月24日、参加人数：延べ53名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
緊急体制発令時に発電所避難者の避難誘導等を実施	① 総務課長 ② 総務課員および構内協力企業社員	良	【良好事例】 関係箇所への連絡対応において、要員間で適切な役割分担および相互支援が行われ、円滑な連携を図ることができた。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

## 要素訓練の概要

### 4. その他必要と認められる訓練

#### (1) 電源機能等喪失時対応訓練

##### a. 緊急時の電源確保に係る訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で55回実施、参加人数：延べ479名））

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
電源車および大容量電源装置による電源確保訓練を実施 ----- 低圧エンジン発電機の接続訓練を実施	① 電気保守課長および発電管理課長 ② 電気保守課員、発電管理課員、技術課員、防災課員、放射線管理課員および構内協力企業社員	良	特になし。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

##### b. 緊急時の使用済燃料プールの冷却確保に係る訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で38回実施、参加人数：延べ255名））

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
ポンプ車による使用済燃料プールへの注水のためのホース接続、注水ライン構成訓練を実施 ----- 燃料補給車による、消防車、電源車および大容量電源装置への燃料補給訓練を実施 ----- ディーゼル発電機への燃料補給訓練を実施	① 機械保守課長、電気保守課長および発電管理課長 ② 機械保守課員、電気保守課員、発電管理課員および構内協力企業社員	良	特になし。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

##### c. その他緊急時対応として行う訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で34回実施、参加人数：延べ161名））

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
シミュレータによる緊急時対応訓練を実施 ----- アクセスルート確保のため、ホイールローダによる模擬瓦礫等撤去訓練を実施 ----- 高放射線下における作業を想定した訓練を実施 ----- 携行型通話装置の接続訓練を実施	① 土木建築課長、発電管理課長、電気保守課長および放射線管理課長 ② 土木建築課員、発電管理課員、電気保守課員、放射線管理課員および構内協力企業社員	良	特になし。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

## 要素訓練の概要

(2) 現在のプラント状態での訓練（未適合炉）（訓練実施日：2025年3月28日、2025年9月17日、参加人数：延べ82名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
現在のプラント状態において、自然災害（地震）を起因とした使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失により、原災法第10条事象に至る原子力災害を想定した訓練を実施	① 防災課長 ② 発電所対策本部要員	良	<b>【改善点】</b> ・COP1、2の凡例の使い方について認識の統一が必要。 ・COP3の戦略の記載方法について整理が必要。	凡例の使い方、戦略の記載の程度等、COPの作成に係るルールを整理して周知する。

(3) 緊急事態支援組織対応訓練（訓練実施日：2024年12月10日～11日、参加人数：3名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
美浜原子力緊急事態支援センターより派遣された講師から指導を受け、現場偵察ロボットの障害物回避操作、掴み取り操作等を実施	① 防災課長 ② 機械保修課員および電気保修課員	良	特になし。	次年度以降の訓練においても、継続的に操作の習熟が図れるよう美浜原子力緊急事態支援センターと連携していく。

要素訓練の概要

【本店】

1. 現在のプラント状態での訓練（未適合炉）（訓練実施日：2025年9月17日 参加人数：8名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
現在のプラント状態において、自然災害（地震）を起因とした使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失により、原災法第10条事象に至る原子力災害を想定した訓練を実施	① 原子力防災・防護課長 ② 緊急時対策要員（原子力班）	良	【良好事例】 ERC対応ブースのレイアウトを見直し、情報連携がより円滑に行える環境を整備した。また、今回の訓練で、資料の配置場所についても改善の余地があるとプレーヤから意見があったため、これらの配置を再検討し、情報共有の更なる向上につなげた。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

2. 災害対策支援拠点对応訓練（訓練実施日：2025年9月19日 参加人数：25名（他事業者3名含む））

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の良好事例および改善点	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
<p>災害対策支援拠点对応訓練</p> <p>放射性物質の放出後を想定し、本店から上北変電所へ移動し、スクリーニング活動、除染活動について、防護服を着用した状態での訓練を実施</p>	<p>① 原子力品質保証室 課長 ② (本店) 原子力運営グループ員、 原子力技術グループ員、 原子力設備グループ員、 放射線管理グループ員および 原子力防災・防護グループ員</p> <p>(女川原子力発電所) 防災グループ員、 検査グループ員 原子炉グループ員、 計測制御グループ員および 保全計画グループ員、</p>	良	<p>【改善点】 スクリーニング用テント内の、作業員の動線表示を増やすことで、テント内誘導員の負荷軽減につながる。</p>	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。
<p>事業者間協力協対応訓練</p> <p>事業者間協力協定に基づき、他事業者と当社本店間で、初動対応および支援要請等の内容の確認を実施 要員の派遣を受け上北変電所にてスクリーニング活動を実施</p>				